

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571000318		
法人名	医療法人 やよい		
事業所名	グループホーム やりさんせ		
所在地	光市三井6丁目18-1		
自己評価作成日	平成25年8月28日	評価結果市町受理日	平成26年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年9月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然の中で、地域に根差した馴染みの生活ができるよう支援しています。地域の行事に参加し、そこで出会った人たちと交流を深めたり、花壇や畑で花や野菜を作り収穫の喜びを味わったり、心豊かに今が幸せと感じて頂けるよう優しい心をもって支援しています。また、一人ひとりの「できること」に注目し、マイナス部分を支援することで「自立」につなげ、安心して楽しく毎日が過ごせるよう居心地の良い場所の確保に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価に全職員で取り組んでおられます。目標達成計画にそって、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を全職員で話し合っ作成され、事業所の敬老会で家族や地域の人に説明して、事業所として地域とどのようにかかわっていくかという姿勢を示しておられる他、職員に運営推進会議の議事録を回覧して内容を周知されるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでおられます。運営推進会議の参加メンバーから出された意見を活かして、介護計画の目標と対応させて日々のケアのモニタリングができるように、利用者の介護記録の記載方法を改善しておられ、職員は申し送りやカンファレンスでケアを振り返り、利用者の笑顔につながる介護に取り組んでおられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回の外部評価で指摘を受け、全員で話し合い、新たな理念を作った。 地域の人々と出会い交流を持つことで地域に根差した感情豊かな生活が送れるよう支援している。	全職員で検討して、新たに地域密着型サービスの意義を踏まえた理念「私たちは、個人を尊重し、個人の今を大切にしながら、地域の中で豊かな生活が送れるよう、やさしい心をもって接していきます」をつくり、事業所内に掲示する他、管理者が日常業務の中で職員に声かけして理念を確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、クリーン作戦や盆踊り、また、JAのお祭りに参加し、地域の方々との交流を図っている。	自治会に加入し、河川土手の草刈り等をしている。地域の盆踊りの仮想大会に利用者や職員が参加したり、JA祭りに参加して金魚すくいなどを地域の人と一緒に楽しんでいる。法人のデイサービスに来訪したボランティア（フラダンス、ハーモニカ演奏、紙芝居、歌謡）やデイサービスの利用者、職員などと交流している。利用者は近くの商店での買い物時や散歩の途中に地域の人と挨拶を交わし、会話をしたり、帰宅途中の小学生と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される行事に参加し、地域の人たちと交流の場を持つことで、入居者の方々の様子が伝わり理解して頂けるよう支援している。また、近くのスーパーに自施設の広報誌を掲載し、楽しい生活ぶりが伝わるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価、自己評価の折には、各項目と実践状況を照らし合わせながら記入することで実情の把握をし、記入している。また、改善するよう指摘があった項目についてはカンファレンス等で目標を立て、達成に向けて努力をしている。	全職員に自己評価をするための書類を配布し、管理者や看護師長が指導して項目の理解に取り組んでいる。全職員で項目を分担して記入し、出た意見をカンファレンスで検討して管理者がまとめている。目標達成計画にそって全職員で新たな理念を作成し、運営推進会議の議事録を全職員に回覧するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、行事や状況報告を行い意見交換をしている。他施設の様子を聞いたり、具体的に踏み込んだ質問や、アドバイスを聞き、職員だけでは思いつかない意見等もあり、より良いサービスの向上に役立っている。	地域住民代表として消防団員1名を新しくメンバーに加え、2か月に1回開催している。状況報告や活動報告、ヒヤリハット報告、外部評価の報告をして、避難訓練などについて話し合っている。メンバーからの情報や意見を取り入れ、ケアを日々モニタリングできるように利用者の介護記録を見直し改善するなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、市町の担当者と直接会って相談することはないが、相談事や質問がある時はその都度、電話で聞いている。	市担当課とは必要に応じて電話で相談をし助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に情報交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の禁止について、研修会やカンファレンスで勉強したり、話し合い、正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	日常業務の中で管理者が指導して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックがないよう、気になるところは管理者が注意している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で勉強したり、カンファレンスで話し合い虐待防止について理解し、事業所内での虐待が見過ごされることがない様注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は、成年後見制度を利用している方が入居していたため、制度について話し合う機会があったが、現在、該当する入居者がいないため話し合う機会もなくなった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等を行う際には、家族に十分な説明を行い不安や疑問点がないかを尋ね、理解が得られるよう図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、意見や要望を聞き、カンファレンス等で相談し反映している。また、第三者委員会を設置し、苦情申し立てに対応している。	相談、苦情の受付体制や第三者委員、処理手続きについて、契約時に家族に説明して周知している。運営推進会議時や行事(敬老会、バーベキュー)への参加時、面会時、電話相談や介護計画作成時などで、家族の意見や要望を聞いている。運営に関する意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を出しやすい様、カンファレンス等で機会を作り、良い意見や提案が、運営に反映できるよう気配りしている。	月1回の職員会議やカンファレンスで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、ミニカンファレンスや申し送り時、日々の業務の中で意見を聞いている。利用者の楽しみのための畑の借り上げにつなげるなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度のカンファレンスで意見要望を聞き、職場環境の改善に努めている。 また、原則的にパート採用をなくし、常勤にすることで積極的な向上心の育成に取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は順番に研修会や講演会に参加し、学んできたことをカンファレンスで発表することで、職員全員が周知できるよう図っている。	外部研修会は情報を伝え、新人研修を含め本人の希望や段階に応じて参加の機会を提供し、受講後は月1回の職員会議で復命して、共有している。日々の業務の中で働きながら学べるよう指導しているが、法人研修や内部研修は実施していない。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新しい事業所の内覧会に参加したり、職員の個人的な交流で情報交換をし、サービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間の許す限り、利用者の横に座り要求を聞き、時には利用者の気持ちを代弁し、不安感を軽減させ、穏やかな生活が送れるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等をしっかり傾聴し共感しながら、「一緒に支援して行きましょう」と声を掛け、安心してもらえるよう支援している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に自由に見学してもらい、雰囲気や直接肌で感じ取ってもらったり、本人、家族と面接し、要望等をしっかり聞き、適応性を判断している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調や身体機能を考慮し、料理や掃除、お盆やテーブル拭き、洗濯物干し、花の水やりなど職員と一緒に楽しい会話をしながら行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、状況報告をしたり、要望や相談事を聞き、共に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会がある時は、居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。また、毎年、手作りの暑中見舞いや年賀状を出したり、地域の行事に参加することで馴染みの関係が途切れないように努めている。	家族や親戚の面会や知人の来訪がある他、年賀状や暑中見舞い状を出す支援をしている。家族の協力を得て馴染みの美容室を利用したり、外出や外泊、外食、自宅訪問、法事への出席などの支援している。家族と一緒に敬老会やバーベキューを楽しんだり、三島温泉祭りに参加して利用者と地域の馴染みの人が交流できるよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす時間が多いので、レクリエーション等で職員が間に入って声掛けをしたり、時には代弁し、お互いのコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら本人、家族の経過を見守りながら、必要に応じて相談や支援が出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の一人ひとりに担当の職員を決め、日常の会話等から本人の思いを聞き、カンファレンスで話し合っている。	入居時に本人の思いを聞く他、利用者の担当職員を中心に全職員で月1回のカンファレンスで検討して、思いや意向の把握に努めている。職員と1対1でふれあう入浴時に利用者の思いを把握するよう努めている。困難な場合は、日常のケアの中から推し量ったり、家族等から聞き取るなどして、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人、家族、関わっていた人から情報収集し、入居後も継続している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から注意、観察し、いつもと違う様子がある時はすぐに職員同士で話し合ったり、介護サービス計画に反映できるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療関係者を含めたケアカンファレンスを定期的に関き、意見を出し合って、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者や利用者の担当職員が中心となり、サービス担当者会議に全職員と看護師長が参加して、本人や家族の思いや意向を参考にして話し合い、介護計画を作成している。日々の介護でモニタリングができるよう記録方法を工夫し、短期目標を3～6か月に1回、長期目標を1年に1回として見直しをしている。カンファレンスで検討して現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、目標を達成したら印を付け、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のディサービスで行われるレクレーションへ参加し日頃とは違う雰囲気を楽しんでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる季節の行事に参加したり、近くのJAへ野菜等の買い物に行き、心豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、馴染みのかかりつけ医や納得のいく医療が受けられるよう支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回往診があり、必要時は協力歯科医の往診がある。専門医の受診は、本人や家族の意向を尊重し、紹介状や服薬情報を提供し、家族の協力を得て受診支援をしている。受診時の情報や指示は家族と共有し、緊急時の協力医療機関の対応など、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師長が毎日の申し送りに出席し、利用者の状態が常に把握できるようにしている。気になることがあれば、直接質問し併設病院と連携を取りながら、速やかに対応が出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族や病院関係者と情報交換を密にし、相談援助を行うことで、利用者や家族が安心できるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や看取りの指針について説明を行っている。、実際に重度化した場合は、本人、家族の思いを聞き、関係者で情報を共有しながら十分話し合い、本人家族の思いが支援につながるよう取り組んでいる。	「重度化対応・看取りに関する指針」を契約時に本人や家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族と主治医、看護師が話し合い、結果を事業所と相談して、方針を共有し、本人や家族の思いに添った支援ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書に記入し、職員全員が周知徹底することで、再発防止に努めている。また、消防署による避難訓練や、応急手当等の訓練を毎年行い実践力を身に付けている。	事例が生じた場合はヒヤリハット・事故報告書に記録し、回覧して共有し、全職員で検討している。事例は担当職員が2ヶ月に1回まとめて運営推進会議に報告し、1年に1回グラフにまとめて検討し、再発防止に努めている。管理者が新任期やその都度の指導をしている他、消火避難訓練時に救急救命についての説明を受けたが、応急手当や初期対応の定期的訓練は実施しておらず、実践力を身につけているとはいえない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害を想定し、自施設での避難訓練を行っている。時間を計り、避難時間や誘導方法、注意点、反省点を記録することで次回の訓練に役立てている。	消防署の協力を得て、年2回、法人施設と合同で、消火、避難、通報訓練を実施している。事業所独自に風水害を想定した避難、誘導、通報訓練を、管理者とその日の日勤リーダーを中心にテーマを決め、利用者も参加して年6回実施している。その結果を記録し、問題点や改善策を検討し全職員で共有している。避難場所や誘導に関して法人他施設や地域の消防団との協力関係がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも唱っているように、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、声掛けや対応に注意しながら支援している。利用者同士の尊厳やプライバシーも損ねることがない様支援している。	職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、本人の立場に立って一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に努めている。管理者は気になるころがあれば職員に指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を常に聞くよう心がけ、自由に表現できるよう支援している。また、自己決定出来るよう職員が働きかけをしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日のペースを把握し、声掛けをしながら希望に沿うよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、施設内で散髪や毛染め、パーマが出来るよう2ヶ月に1回業者に依頼し、整髪を行っている。また、季節に合った服装で快適に過ごせるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を聞いたり、季節感のある食材を使って栄養バランスを考えた献立を一緒に作っている。また、外食や出前、お弁当などを利用し食事が楽しめるよう工夫している。	職員が利用者の好みを聞いたり、畑で採れた野菜や旬の野菜を利用して献立を立て、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者と職員と一緒に、食材の買い物や下ごしらえ、調理、盛付け、食事、後片付けをしている。季節行事に合わせた食事づくり(恵方巻きや柏餅、おはぎ、鰻丼)や、お好み焼き、餃子、抹茶、出前や外食、家族等と共に楽しめるバーベキューなど食事を楽しむ工夫をして支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	色々な食材を使い栄養が偏らないよう工夫し、利用者一人ひとりに合った食事形態、食事量で提供している。また、1日の水分量を把握し、しっかり摂取できるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合った口腔ケアの方法で、必要に応じて、職員が声掛け見守りを行っている。 昼食後は職員が全員の仕上げを行い、口腔内の清潔を心掛けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導をして、自立に向けた支援を行っている。	介護記録を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳またはヨーグルト、また繊維の多い食材を使った料理を提供し、便秘にならないよう料理に工夫をしている。水分の調整、運動などで利用者に応じた予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回、午前中で、利用者の体調を確認して、一人ひとりゆっくり入浴できるよう支援している。	日曜日以外の9時10分から11時15分まで、希望そって毎日入浴することができる。背中を流したり、入浴剤を使ったり、柚子を浮かべるなどして、利用者と職員がゆっくりと会話し、入浴が楽しく心地よいものとなるよう、個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、湿度の管理を行い、本人の生活習慣を尊重し、体調に配慮しながら休息や睡眠がとれるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の情報について、職員はほぼ理解している。看護師が配薬し、利用者の状況に応じて服薬支援を行い、確実に服薬できたか、また、症状の変化等に注意を払っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を振り返り、本人の得意とする分野や本人の希望に沿って、持っている力を生かした役割、楽しみ事が出来るよう支援している。	しめ縄作り、餅つき、鏡開き、節分豆まき、ひな祭り、そうめん流し、クリスマス会などの季節の行事や誕生日会、ハンドマッサージやネイルケア、習字、カラオケ、ボール投げ、風船バレー、ことば遊びゲーム、ちぎり絵での干支作り、折り紙、テレビ視聴、週刊誌や新聞を読む、経写、花壇作り、さつま芋植え、玉ねぎ収穫、メダカの餌やり、自室の掃除、洗濯もの干しや洗濯物たたみ、調理の準備や後片付けなど活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をして、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事に沿って、花見や外食、地域での盆踊り参加、気候の良い時期には散歩や、花壇、畑の手入れなどで外出の機会を設けている。	季節の花見(冠梅苑、柳井フラワーランドのバラ、笠戸島の桜、下松スポーツ公園のコスモスなど)や外食、三井地区盆踊りや三島文化祭への参加、法人のデイサービスセンターに訪するボランティアとの交流、家族の協力を得ての外出や外泊、外食、法事への参加などを支援し、近くの商店への買い物や川土手の散歩、畑や花壇の手入れなど日常的に外出を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には、家族と相談の上金銭を所持し、近くのJA等へ職員と行き買い物が出来るよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月行っている習字の日に手書きした暑中見舞いや年賀状を家族に出している。 また、本人の希望があった時や、職員が様子を見て電話をかけるよう促し、ゆっくり家族と話が出来るよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やホールは、日当たりがよく、窓からは島田川や自然の景色が見え四季折々の季節を感じる事が出来る。また、施設内の壁には行事等の写真や季節の壁飾りが貼ってあり、前を通る度、楽しめるよう工夫している。	台所と食堂は島田川に面し、大きな窓からは川沿いに飛んでくる野鳥や川土手を歩く人を間近に見て利用者同士で会話を弾ませている様子が伺える。食堂と居間が区別しており、ソファーや大型テレビ、畳のスペースがあり、ゆったり過ごすことができる。壁面には行事毎の写真や書道などの利用者の作品を飾っている。明るく清潔に保たれ、温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは自由にソファーに腰かけ、テレビを見たり、気の合った者同士、話が出来るといった場所の提供をしている。身体の状態によっては肘掛椅子に座り安全に過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ってきていただき、家族の写真や飾り、手作りカレンダーを飾って居心地良く過ごせるよう工夫している。	使い慣れた整理タンス、置き時計、テレビなどを持ち込み、本人や家族等の写真や誕生日祝いの色紙などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーで廊下やトイレ等、必要に応じて手すりを設置し、また、身体状況に応じて肘掛椅子を利用し、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームよりさんせ

作成日: 平成 26年 1月 6日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	定期的な内部研修はしていない。	定期的に法人研修や内部研修を行い、職員の質の向上を目指し、より良いサービスの提供ができることを目標とする。	3ヶ月に1回、法人や内部研修を行い、職員の質の向上を図り、利用者の方々により良いサービスの提供が出来るように取り組みます。H25年11月に『高齢者施設における手指衛生について』と題して、1回目の勉強会を行っている。	1年
2	35	応急手当や初期対応についての訓練は、1年に1~2回行っているが、定期的には実施していない。	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、職員全員が実践力を身に着け、的確な判断と対応が出来ることを目標とする。	3ヶ月に1回、法人や内部の研修を行う。応急手当や初期対応についての勉強会を開き、職員全員が、実践力を身に着け、いざという時に慌てず対応が出来るようにする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。